



## 平成26年度 全国保健師長会 ニュース No.3

### 第2回理事会報告

平成26年10月運営会議発行

寒暖の差が激しく体調を崩しやすい時期ですが、会員の皆様にはお元気でご活躍のことと思います。保健師長会ニュースNo.3をお届けします。今回は第2回理事会報告です。

#### 《平成26年度 全国保健師長会第2回理事会》

◇日時：平成26年10月11日(土)13:00～15:00

◇会場：日本公衆衛生協会1階会議室

#### 【会長挨拶】

ブロック研修会は、中国・四国ブロックは延期になりましたが、他は無事に終了することができました。研修の内容は今後HPに掲載して、共有化したいと思います。保健師の人材育成については各自自治体で取り組まれているところですが、国においても取り組みがされており、保健師長会としての意見も求められています。最近の動向としては、虐待対応や難病対策など、保健師の役割が大きくなっていますので、このような状況も踏まえながら協議していけたらと思います。

#### 1 議事・報告

##### (1)第36回代議員総会について

11月22日(土)に岩手県盛岡市で開催される代議員総会について、議案及び当日の運営について協議しました。中でも「平成27年度全国保健師長会活動方針(案)」について、活発な意見交換が行われました。意見交換では、「地域包括ケアシステムの構築は重要だが、保健師活動の基本である予防活動の視点や母子保健活動についても明記した方がよいのではないか」「平成27年度のサブテーマについても保健師としての積極的な姿勢を入れた方がよいのではないか」などの意見が出されました。

また、総会後の「被災地ツアー」に38名の申し込みがあったことが報告されました。

##### (2)全国保健師長会ブロック研修会について

各ブロック毎に有意義な内容の研修会が開催されていることを踏まえ、会員間で情報共有するためにHPに掲載していくことになりました。現在は、九州ブロックのみ掲載されていますが、随時掲載していく予定です。講師の了解の下、パワーポイント等の資料も掲載しますので、ぜひご覧下さい。

##### (3)保健師長会の英語表記について

今年度開催される「第11回ICMアジア太平洋地域会議・助産学術集会」から後援名義の借用依頼がありました。今後、国際的な学会への関与も踏まえて、横浜市立大学田高教授のご協力をいただき、会名の英語表記を作成しました。

Japan Association of Public Health Nurse Directors



#### (4)災害時保健医療活動標準化検討委員会の経過について

委員として会に参画している松本珠実常任理事から経過報告がありました。

この委員会は、大規模災害発生時における保健医療活動にあたり、自治体間の応援を効果的に行うための必要事項を検討するために設置されました。全国保健所長会・全国衛生部長会・全国保健師長会の3者の共通理解・協力関係の構築と、標準化を図る上で必要な体制等が協議されています。統括保健師の役割として「保健医療福祉を統合した部門に統括保健師を置き、部局横断的にマネジメントを行う」「保健所保健師は早期に市町村に派遣され、統括保健師をリエゾンサポートする」案については意見が求められ、各理事から統括保健師を位置づけることの意義や「組織や体制等、現状の活動を考慮すると様々な課題がある」等の意見が出されました。また、災害対策の中で「統括保健師に期待する役割」について、委員会の意見を聞くことは大切という意見が出ました。

#### (5)国家要望の検討の進め方について

次年度の要望書作成にあたり、従来の手順を見直す事になりました。運営会議、3部会、各委員の代表で、作成の方向性や重点テーマや要望事項を選定し、要望の柱や方向性・優先テーマ等を示して、それをもとに各支部から意見を出していただくことになりました。

#### (6)保健師の研修にかかるあり方検討会について

厚生労働省の検討会には藤原総務担当理事が出席していますが、そこに資料として、市町村部会の統括保健師に関する調査報告を提出することとなりました。

#### (7)学会関係について

- ・第3回日本公衆衛生看護学会学術集会  
会期：2015年1月10日～11日  
会場：神戸国際会議場  
※演題登録は275題ありました。参加者募集中
- ・第73回日本公衆衛生学会  
会期：2014年11月5日～7日  
会場：栃木県総合文化センター  
※保健師長会のブース展示を行います。

#### **【編集後記】**

今回の理事会も活発な意見が出され、第一線で働く保健師のリーダーとしての思いが伝わる会議でした。保健師を取り巻く情勢は刻々と変化していますが、保健師としての軸足をしっかりと持つことの大切さを再認識しました。  
(作成：広報委員会)